

# 興味があることはやってみよう。 挑戦することで自分が変わる。

とうま ゆりな  
当間 友梨菜

たば すずか  
田場 鈴佳

沖縄国際大学  
英米言語文化学科 3年次



## インターンシップ企業

一般財団法人日本アジア振興財団

## —— 語学インターンシップに参加したきっかけは

私たちは英米言語文化学科の同級生です。二人とも将来は英語を生かせる仕事につきたい、就職先は沖縄県外でみつきたいと共通点が多く、ふだんから仲良くしています。3年次の夏、いよいよ就職活動にも本格的に取り組まなくてはと思っていた時に、「はばたくウチナンチュ応援事業」の一環で語学インターンシップがあることを知りました。航空会社への就職を第一希望で考えていますが、通訳や海外での仕事にも興味があったので、「自分の興味が向くことはいったん全部やってみよう!」という気持ちで、大阪での語学インターンシップに応募しました。事前研修で社会人としてのマナーなどを学ぶことができたし、旅費の補助制度があったことも背中を押してくれました。

## —— どんなインターンシップでしたか

インターン先は、カンボジアをはじめとする東南アジア諸国へのインターン派遣を主な業務としている団体です。大阪のオフィスで働いていたのは、ドイツ人、中国人、日本人と人種もさまざま。初日に代表理事とお会いした時に、「結果はどうあれ、とりあえずやってみよう! 失敗したらそれから改善点を見つければいい」と言われました。5日間の研修はあらかじめスケジュールが決まっていて、お客様から依頼のあった文章の翻訳作業、インターン募集のチラシやポスター作り、企業向けの英語研修の講師、在大阪の領事館や観光局訪問など、たくさんのご経験をさせていただきました。

## —— 実際に行ってみてどうでしたか

仕事の現場にリアルに携わらせていただいたので、本当に毎日が驚きの連続でした。5日間、びっしりとやるのが詰まっていたので、時間内に仕事を終わらせることができなくても、次の予定が待っています。昼間の仕事の遅れを取り戻すために、退社してからもカフェやホテルの部屋で仕事を続けました。インターン中の睡眠時間は毎日3時間くらいでしたね。それから、仕事はひとりでやっているわけではないので、チームの作業の進み具合を共有する「ほう・れん・そう(報告・連絡・相談)」の大切さも身にしみました。自分たちはきちんとやっているつもりでも、会社側からしたらぜんぜん足りていず、それが結果として全体の業務に遅れを出してしまうというのがわかりました。それ以外にもいろいろなことがありすぎて、毎日が「すごいね!」の連続でした(笑)。



## —— インターンシップの反省点・よかった点は

仕事を時間通りに仕上げるができなかった一番大きな原因は、パソコンソフトの操作に慣れていなかったこと。今まであまり力を入れていなかった科目なので、4年次にもう一度、履修するつもりです。もうひとつは、自分たちの強みのはずの英語力がまだまだ足りないということ。専門用語や日本語でも意味があいまいな言葉があったので、今後は語学力のブラッシュアップも課題ですね。でも逆に言えば、自分たちに足りないものがわかったことこそ大きな収穫。「働く」をリアルにみれたことで、チームワークや密なコミュニケーションなど、組織で動くとはどういうことなのか少し理解できました。5日間を通して受けた刺激すべてが、今後のためになったと感じますね。

## —— 参加を考えているみなさんへメッセージを

沖縄とは環境や文化が違う土地での経験は、毎日が本当に必死でした。自分ってまだまだ小さいと感じることも多かったのですが、それを乗り越えたという達成感が、今は自分への自信になっています。今回私たちはふたりで参加しましたが、事務局のサポートも手厚いですし、研修で友だちもできるので、けっして一人ではありません。まわりからの刺激で自分のモチベーションもアップするので、迷うくらいならまずは説明会に参加してみても。小さな一歩で自分が変われるはずですよ!

